



地域学校協働活動と キャリア教育の広報紙

てなむ

学校向け

- ◆ こばやしスクールサポートボランティアセンター
- ◆ 小林市キャリア教育支援センター

【小林市社会教育課】Tel22-7912
【小林商工会議所】Tel23-4121

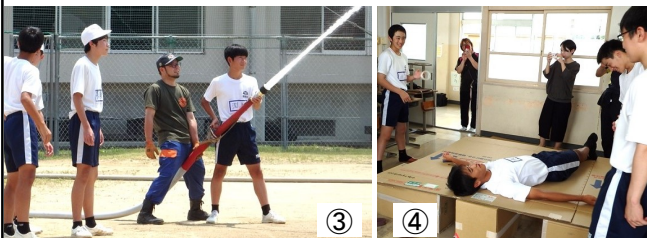
東日本大震災や能登半島地震で、小学生が避難生活に役立つ新聞を作ったり、中学生が避難所の運営を手伝ったという話を聞きました。活動内容によっては、子どもたちも、十分、支援の輪に加わり、力を発揮できることでしょう。

8月8日、野尻中の3年生が避難所運営訓練を行いました。内容は…(数字は写真の番号)

- ◆ 防災講話「避難所で中学生ができること」
- ◆ ロープワーク(生活に役立つ結び方)①
- ◆ 新聞紙のスリッパづくり② ◆放水体験③
- ◆ ドローン操作体験 ◆ 段ボール寝床づくり④
- ◆ 無水カレー作り など

当日の夕方、日向灘を震源とする大きな地震が起きました。防災の話聞き訓練を見学して、災害への備えについて改めて考えていただけた大きな衝撃を受けました。

今後、学校が避難所となり、子どもたちが何らかの役割を担うこともあるでしょう。南海トラフ巨大地震への注意喚起がなされている今、学校と地域が連携して対策を講じておく必要があります。

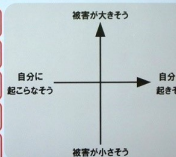


【協力】市役所危機管理課・野尻地区消防団・社会福祉協議会・SVC(災害ボランティアコーディネートセンター)・西諸県広域消防・3年生保護者・PTA 役員 等

紙屋中 スマホ・ネット安全教室

自分のリスクを考えてみよう

- ① 長時間利用
- ② 高額課金
- ③ チャットで悪口を書かれる
- ④ 歩きスマホ
- ⑤ 知らない人との出会い



NTTドコモのオンライン授業です。主な内容は、①リスクの考え方を学ぶ、②自分と周りのリスクの違いに気づく、③リスクへの対応を考える。

最初に、講師の佐藤さんから、「リスク(危険)は、起こりやすさ×被害の大きさ」とか「リスクを考える時は、リスクの発見→見積り→対応の段階を踏みます」との説明がありました。

ワークシートを使った活動では、「自分に起きそう」「被害が大きそう」「広告があやしそう」などを判断して回答。その後、そう考えた理由をグループで話し合いました。生徒たちは、質問の項目ごとにこの活動を繰り返し、自分自身のリスクについて理解を深めました。

幸ヶ丘小 木工教室

【協力】西諸地区
森林組合



全校児童が参加した放課後子ども教室の活動です。クイズを交えた木材についての話を聞いた後、森林組合が準備した材料を使い、真ん中の仕切りがスライドする本立てを作りました。

子どもたちは家族に手伝ってもらいながら、上手にくぎを打ち、組み立てていました。夏休みの木工教室は、椅子やポストなど、毎年作品を変えながら10年以上続いています。

須木中 暮らしの困りごと助け隊



社会福祉協議会須木支所と学校が連携し、夏休みと冬休みに実施しています。この日は、ふるさとセンターで生徒22名とサポーター8名が顔を合わせた後、4班に分かれて地域の住宅を訪問。

暑い中、1時間ほど庭掃除やガラス拭きなどを行いました。その後、ふるさとセンターで修了証明書を受け、全員が感想を発表して活動を振り返りました。

【協力】ボランティア連絡協議会
民生児童委員・友愛クラブ

裏に続きます。

水質・水中生物調査（霧島・小林探検隊）



場所はかくれ念仏洞近くの永久井野川。市内の小学生18名(7校)、中学生4名(2校)が参加しました。

最初に目を閉じて自然の音を聞き、周囲の自然と人工物を観察しました。水質と透明度を調べた後は生物の調査。網やバケツを手し、魚や昆虫を採取して名前や生態を調べました。子どもたちは冷たい流れの中で、暑さを忘れて熱心に活動していました。

【協力】小林市生活環境課・小林保健所
小林市子ども会育成連絡協議会



「霧島・小林探検隊」は社会教育課が行っており、学校を通じて隊員を募集しています。7月には熊本県御船町の恐竜博物館を見学しました。

職員研修（史跡めぐり）



【説明】井上さん(社会教育課)
【見学】二原遺跡公園・仲間の田の神・新田場の田の神



仲間の田の神

新規採用と9～11年目の先生11名が参加して小林の文化財について学びました。

中央公民館での井上さんによる講話「文化財を活用した学習」の後、バスで二原遺跡へ。初めて訪れた先生も多く、興味深く説明を聞き、見学していました。

市内には50近くの指定文化財があり、多くの学校が史跡や郷土芸能を授業に取り入れています。しかし、ここ数年、さまざまな事情で行われなくなった活動もあります。今後、子どもたちに地域の魅力を伝えるためにも、文化財がより身近になる取組が増えてほしいと願っています。

教育フォーラム



大工原忠相さん
日本電気株式会社
文教科学ソリューション統括部

市内の小中学校の教職員280名が出席して文化会館で行われました。

(主催:小林市教育委員会)

前半は大工原さんの講演。演題は「子どもたちに必要なVUCA(ブーカ)時代のキャリア教育とは」。VUCAとは将来の

予測が困難なため、自己の経験(既存の価値観やビジネスモデル)だけでは対応できないこと。量子通信技術など、10～20年後には実現が予測されるさまざまな未来技術を紹介した後で、そういう時代を乗り切る能力や教育内容、大人の在り方についてお話してくださいました。「前例踏襲ではなくチャレンジする大人の姿を子どもたちに見せること」という一言が心に残りました。

後半は大工原さんと4人の登壇者による小林のキャリア教育についてのトークセッション。

話題の一つが小林の地域学習「こすもす科」。子どもたちの自立や地域への愛着を念頭に構成された教科です。その価値を最大限に生かすために必要な外部講師の導入や子どもたちの自主的な活動など、指導方法を充実させる具体的な取組について語り合いました。

こばやし未来創造塾「起業家サミット」



小中高校生が約30名、大人も10数名が参加して「学びの1週間」の中で行われました。

最初は、鹿児島県始良

市の廃校を再生して私立小学校を作るプロジェクトに携わっている高校1年の女子生徒の報告。地域おこしの理念と行動力に驚かされました。

その後、市内外の起業家3名がそれぞれの会社について紹介。起業に至った経緯や事業内容についてお話してくださいました。話を聞いている子どもたちの真剣な表情から、「本当に聞きたい話を聞いている」という印象を受けました。

高校生寺子屋 テナム

主催:「絆を結ぶ物語」実行委員会



夏休み中の3日間(13:30～15:30)、小林高校生約20名が小中学生の学習を手伝いました。高校生たちはマンツーマンで、宿題の解き方を教えたり質問に答えたり…。中学生がもってきた数学の難問を、高校生が数人がかりで苦労して解いている姿も見られました。

参加した全員にとって、教えることと教えられることを通して、多くのことが学べた貴重な時間になりました。

